



眼差しの在り方に、正解はない。

「人」と「人」として

出会うことから、関係が始まる。



# 障がいのある人もない人も混ぜこぜに

**岡野 高志さん**  
観光協会職員で、まちづくり会社暮らしの編集室の代表。「北本まつり」「みどりとまつり」や &green market などの企画に携わる。北本団地のシェアキッチン「中庭」の管理メンバーの1人。市内で活動する市民団体や農家などのつながりも多い。



**小倉 明美さん**  
北本市社会福祉協議会職員で手話通訳士。式典等での通訳の他、聴覚障がいのある人の日常生活での手話通訳も行う。手話ができる人、聴覚障がいのある人等と「チーム手話べり」を結成し、「手話べりかふえ」を毎月開催。聴覚以外の障がいのある人たちとの交流も深い。

## まちづくり × 福祉

バリアを無くして交流したい

**岡野さん** 小倉さんとは、5年前の北本まつりの外国人ツアーに参加してもらってから、いろいろな事業でお世話になっていきますね。

**小倉さん** あのツアーでは、聴覚障がいの人たちと一緒に、外国人の皆さんとねがたを曳いたり太鼓を叩いたりしました。外国人とはジェスチャーで積極的に交流できましたし、ボランティアの大学生たちも「手話通訳の」小倉さんを介さずに聴覚障がいの皆さんと話したいと手話を勉強してくれて、聞こえない皆さんも喜んでくださったのが印象的です。

**岡野さん** 僕は、このときがきっかけで、障がいのある皆さんが直面している情報のバリアをすごく感じました。

**小倉さん** 耳が聞こえない人は、例えば周囲の話し声が届かない。つまり、情報が入らないので、手話通訳として現場にいるときは、ちょっとした時間に世間話をするようにしています。

**岡野さん** そういう想像力が、福祉職の皆さんにはあるんじゃないかな。想像力って優しさだと思う。

**小倉さん** 私もそう思います。岡野さんに、「中庭」(※)を使って何かやらないか」と声をかけられて、手話通訳の仲間たちと「手話べりかふえ」を始めましたが、みんなが優しいから一

緒にやれてますね。

**岡野さん** 僕が「手話べりかふえ」で良いと思うのが、聴覚障がいのある人をケアしながら誰に対してもオープンな空気を維持しているところ。

**小倉さん** 私は昔から社会の中にそういう(障がいのある)人もそうじゃない人もいるのが普通だと思っていて。何かイベントをやるなら、混ぜこぜが良いなと考えてました。手話べりかふえも、団地に住んでいる人がふらっと入ってきたりするし、手話ができる人、勉強中の人、聴覚障がいの人が混ざっていて、一緒にこの空間を作っていく。それができるのは、みんな「風通しが良い場所にしたかった」という思いが共通しているからだと思います。

**岡野さん** それって「仲間」だからでしょうね。僕も、小倉さんや福祉関係の人とコラボすることがよくありますが、それは福祉に貢献したいという以上に、仲間とか友だちとして一緒に面白いことをやりたいっていう思いのほうが強いです。

**障がい関係なく、人として手を差し伸べる**

**小倉さん** 私は精神障がいや知的障がいについては専門知識はないけれど、やっぱり「知りたい」「知れば仲良くなれる」と思っていて、そこからつながることができるんじゃないかな、と思う

**【手話べりかふえ】**  
手話ができる人もできない人も手話でおしゃべりを楽しむ。ドリンクの提供等あり。  
時毎月第1木曜日 14:00 ~ 16:00  
場北本団地「中庭」

**【手話サークル】**  
時毎週月曜日 10:00 ~ 12:00、水曜日 19:00 ~ 21:00  
場総合福祉センター



んです。この特集でも、障がいのあるお子さんのママさんたちとつながりがあったので、座談会(③・④ページ掲載)「障がいのあるお子さんのママたちに聞く(ホンネ)」をやってみませんか」と持ち掛けたら、皆さんこころよく協力してくださいました。

**岡野さん** 僕も座談会を聞かせてもらいました。そこで思ったのが、障がいがあるからといって何かをしてあげる存在だと決めつけるのは違うな。お年寄りや子どもと同じで、困っているときに当たり前に手を差し伸べるということだけで。

**小倉さん** 障がいの有無は関係ないんですよ。一人一人というくらいで言えばみんな同じなんです。

※「中庭」…北本団地商店街のシェアキッチン。ジャズ喫茶や高齢者の見守りカフェ、子ども食堂など、さまざまなイベントが日替わりで開催される。